



フリー・ザ・チルドレン・ジャパン Free The Children Japan

2012 年度年次報告書 Annual Report 2012



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、「Kids Can! (子どもだからこそできるんだ!)」を理念に、国内の子どもの国際協力活動を推進、海外の児童労働や貧困下の子どもたちの支援を行っています。

ビジョン

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの目指す社会

世界中の子どもたちが「子どもの権利」を奪われることなく、心もからだも健康に育ち、自身の夢や希望を実現できる社会。
そして、世界中の人々、特に子どもが国籍・宗教・年齢・性別・文化に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気付ける社会。

ミッション

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの使命

- ・貧困や児童労働から子どもを Free (解放) すること。
- ・「子どもは無力だ」という考えから子どもを Free (解放) すること。

活動内容

上記のビジョン・ミッションを達成するため、私たちは5つの事業を行っています。

子ども主体
事業

子ども活動
応援事業

海外自立支援
事業

ネットワーク
事業

アドボカシー
事業

ごあいさつ

2012年度は、専従スタッフ3人、非専従スタッフ3人、インターン9人、その他、定期的にオフィスに来て作業をして下さるボランティアやメンバーの皆さんに支えられの事業に取り組むことができました。



代表理事 中島早苗

それにより、2012年度の課題の一つであった「子どもメンバーや若者に向けたサポートを充実させ、活動をエンパワーメントする」ことに取り組み、世田谷区の公立学校を始めとした東京都内の学校や他組織との連携によるワークショップや、日本国内での Take Action Academy を実施しました。今まで公立学校への出張講演については経費の問題で実現が難しかったのですが、2012年度は、助成金による支援によって15校への公立学校を訪問することができました。また、出張講演の体制を整えるために、教材開発及びファシリテーター育成にも取り組み、大学生などのユースメンバーを新たに受け入れ、彼らの力に助けられました。

また、多くのご支援に支えられ、インドやハイチ、フィリピンで新たに学校建設に着手することができ、東日本大震災支援として、相馬市の小学校への支援を実施することができ、目に見える成果を残すことができました。

ご協力下さったみなさまに、改めて感謝申し上げます。

目次

2012年をふりかえる・・・P4

海外自立支援事業報告・・・P6

フィリピン・・・P8

インド・・・P10

モンゴル・・・P12

ケニア、ハイチ・・・P13,14

国内事業報告・・・P16

子ども主体・子ども活動応援事業・・・P18

アドボカシー事業・・・P30

ネットワーク事業・・・P32

会計・監査報告・・・P36

ご寄付・ご協力いただいた企業・団体一覧、
メディア掲載・・・P38

イベント出展・スピーカー派遣（学校等への出張講演含む）

62回 / 参加人数：8,320人

母校で出張講演！▶



子どもメンバーが自分の通っていた母校を訪問し、スピーチを行いました。



▲元子ども兵士 ミシェル来日
コンゴ民主共和国出身の元子ども兵士ミシェルを招へいし、全国各地で講演会を行いました。

ミシェル関連イベント

全国 14カ所 / 参加者：4,000人

A LOOK BACK AT 2012

2012年度 寄附者数 94名 3,399,198円（企業・団体除く）

たくさんの方々のご支援によって、国内外の子どもたちへの支援を行うことができました。
みなさまからの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

▼保健衛生指導への参加者（インド）

子ども 154人およびその家族 800人



▲ミンダナオ島緊急支援（フィリピン）

2012年12月にフィリピンを襲った大賀や台風で被害を受けた人々に、食糧などの支援を行いました。

300家庭を対象に実施



◀ Take Action Academy in Japan（神奈川県 川崎）

参加者 30人

ファシリテーター育成講座を受講したユースメンバーがファシリテーターとして参加し、ワークショップなどを行いました。



新規メンバーの登録数：347人

子ども及びユースメンバー合計：800人

（2013年3月末）



東日本大震災による津波被害を受けた学校に、太鼓セットを寄付しました。（福島県）

スタディーツアー（フィリピン）

参加者：18人

◀ 2013年3月、フェアトレードをテーマに、フィリピンのフェアトレード生産者やスラム地域を訪問しました。



ゲル図書館に来た子どもたちの様子 ▶
（モンゴル）

ゲル図書館の来場者数：月平均 1900人



海外自立支援事業

事業実施国一覧

海外支援事業では、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの目的の一つ「貧困や搾取から子どもを解放する」の実現に向け、権利が奪われている途上国の子どもたちやその家族を支援しています。2012年度は、インド、フィリピン、モンゴル、ケニア、ハイチ 5 カ国で、事業を実施しました。

インド ..p10

<事業内容>

1. 西ベンガル州の貧困下におかれた子どもの救出・自立支援活動
2. ラジャスタン州の貧困農村地域の子どもへの支援活動



ケニア ..p14

<事業内容>

ケニアの乳幼児や子どもへ健康増進支援



モンゴル ..p12

<事業内容>

1. 図書施設運営事業
2. 洋服支援プロジェクト



フィリピン ..p8

<事業内容>

1. プレダ基金（PREDA Foundation Inc.）支援
2. ミンダナオ島先住民族コミュニティ 自立支援



ハイチ ..p15

<事業内容>

ハイチの貧困地域での学校建設事業



フィリピン

プレダ基金 (Preda Foundation Inc.) 支援

主な
受益者プレダ基金で保護されている青少年 約 200 人
フェアトレード商品生産者対象
地域

オロンガポ市

プレダ基金で保護されている子ども（少女・少年あわせ約 200 人）への教育、職業訓練、栄養強化、自立支援を実施。
また、プレダ基金が販売するフェアトレード商品を購入し貧困層の自立支援に取り組みました。

プレダ基金 (Preda Foundation Inc.) とは？

オロンガポ市にある現地 N G O で、「子どもや女性、貧困層の人々を守る」ことを目的に、1974 年アイルランド人のシェイ・カレイ神父とフィリピン人のヘルモソ夫妻によって設立されました。性的虐待や刑務所から子どもを保護・支援する活動や、貧困層の自立にむけフェアトレード事業も展開しています。

ミンダナオ島先住民族コミュニティ自立支援

助成協力：地球市民財団



ミンダナオ島に住む、先住民族であるディババウォン族の就学前教育を行う施設（デイケアセンター）の建設事業に着手しました。当初の計画では 2013 年 3 月に施設が完成する予定でしたが、施設が建設される予定だった土地を巡り他の住民から突如、土地権利を申請する動きが出て、その土地を使うことができなくなってしまいました。

そこで、自治体と教育庁と協働し教育庁が管理する土地に、教育施設の建設を行えるよう話し合いを持ち、2013 年 3 月より建設に着手しました。建設後は公立幼稚園として教育庁の管理の下、幼児教育運営が行われ、午後など空いている時間に地域の親向け（特に母親）の保健衛生教育、職業訓練 セミナー、地域の小学校以上の子どもへの先住民族としての文化理解継承教育を実施する予定です。

主な
受益者ディババウォン族の幼児・
子ども 300 人対象
地域

ミンダナオ島

緊急支援



2012 年 12 月に起きた大型台風により、ディババウォン族のコミュニティで土砂崩れが起き、小学校や家が壊れるなど大きな被害を受けました。また、豪雨により橋が決壊したことにより、周りから孤立し支援物資が届かず、人々は食べるものや着るものがなく、厳しい環境で過ごしていることがわかりました。そこで、コミュニティ内の被災した 300 家族（片親の家族や、高齢者がいる家族含め）に対して、米、魚の干物、卵、マンゴー、砂糖、塩、麺類、いわしの缶詰、石鹸、バケツ、タオルなどの食材と生活用品を支援物資として配給しました。

インド

農村地域自立支援：学校建設支援

寄附協力：NPO 法人 Shared Smile Japan (株式会社ディアーズ・ブレイン)

主な
受益者

バリンド村の 300 世帯の人々

対象
地域

ラジャスタン州ウダイプール周辺
ラジャスマンド地方貧困農村地域

株式会社ディアーズ・ブレインのご支援により学校建設事業を行いました。

バリンド村は、学校設備が古く教室が不足していたため、学齢期の子ども 200 人がいるにも関わらず、子どもたちのほとんどが教育を受けられていません。そこで、この地域に新たに学校建設を実施しました。

結果、1つの教室と、衛生的な水を得るために、水ポンプ、ハーブや野菜を収穫するために、スクールガーデン、トイレの設置などを行い、学校の環境を整えました。今後は、村人の健康や衛生面の向上のために、ガーデンを利用して、ハーブや野菜を植え、育て収穫する技術を子どもや村人に教えるセミナーを実施します。



CCD マクタニール養護施設運営支援

パートナー
団体

Center for Communication and Development(CCD)



主な
受益者

マクタニール養護施設で
生活する子ども 22 人

対象
地域

インド 西ベンガル州

手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通じて集まった資金を主な財源として、マクタニール養護施設で保護された子どもたちが学校に通うために必要な制服や文房具、ワークショップ教材、栄養ある食事の支援を行いました。

CCD マクタニール養護施設とは？

カルカッタ郊外にある現地 N G O 団体 CCD(Centre for Communication and Development) が運営する養護施設で、児童労働をしていたり、家族に見捨てられ路上で生活するなど、過酷な環境にいる子どもを救出し、子どもが権利を守られ、安心して生活できる環境を提供しています。

農村地域自立支援：保健衛生支援

助成協力：草の根市民基金 ぐらん



主な
受益者

ウダウド村の子ども 154 人

対象
地域

ラジャスタン州ウダイプール周辺
ラジャスマンド地方貧困農村地域

2012 年度から保健教育を実施し、村人の保健衛生の知識を高めました。具体的には学校での保健指導、保健意識向上の教科書の配布、家庭訪問を通じた女性の保健教育に対する意識付けを行いました。

モンゴル

図書施設運営
事業



ウランバートル市バヤンズルフ地区
に住む 3,000 人の子ども



ウランバートル市バヤンズルフ地区

2008 年からモンゴルの厳しい暑さや寒さから身を守り、勉強や交流、安らぐ場所としゲル図書館を運営しています。2012 年は、本を読みに来る子どものケア、手洗いうがいのよびかけ、文字の読み書き・算数・日本語・音楽レッスンなどを実施、夏には老朽化・防寒対策のためにゲルの改修も実施しました。また、日本の支援者との文通を通じた交流も行いました。

2012 年を通し、少ない月で述べ 963 人、多い月で 2,608 人もの子どもが本を読みに来て、合計で述べ 22,553 人の子どもの来館がありました。



洋服支援プロジェクト

首都ウランバートルから片道約 850 キロ地点にあるアルハンガイの貧困家庭の遊牧民の子ども小学生から高校生までが学校に通うために暮している寮を訪問し、子どもとその家族に対し、日本で集めた洋服を配布しました。



アルハンガイの寮にいる子どもと
家族 80 人



ウランバートル市バヤンズルフ地区



ケニア

母子保健 健康増進
支援



支援地域に暮らす子どもと家族
7000 人以上



対象地域
マサイマラ地区
リフトバレー州ナロク県

母子保健・健康増進支援のために、水、保健衛生、栄養についてのプログラムを実施しました。

水支援プログラム：マサイマラ地区の村で衛生的な水へのアクセスが可能になるよう、飲み水や農業用の灌漑用水路の設置を行いました。

保健衛生プログラム：リフトバレー州ナロク県にあるバラカ・クリニックセンターにて、女性（特に妊産婦）や子ども及び乳幼児を対象にした栄養補給（ビタミン、ミネラル補給）、健康チェック、栄養改善カウンセリング、予防接種の提供をしました。

栄養プログラム：コミュニティの学校で栄養強化された食事（大豆、トウモロコシ、ミネラルやビタミンが含まれたもの）を就学児童へ提供しました。また、食事から取る栄養についての情報を生徒達に伝えています。学校で学んだ生徒達は、自分たちの村の置かれている厳しい状況、たとえば、過酷な農耕条件、社会インフラの不備などをしっかり認識したうえで、村の生活を何とか良くしたいと考えているようになっています。

ハイチ

学校建設事業



支援地域に暮らす子ども 200 人



対象地域
マリアラパ コミュニティ



マリアラパ コミュニティは、4 千人ほどが生活するプラトー北部にあります。この地域は孤立しており、政府や外部の援助を得ることができず、9 割の人が 1 日 1 ドル未満で生活をしています。

また、この地域の教育水準は驚くほど低く、男性の 80%、そして女性の 90% 以上は読み書きができないというデータがあります。このような現状を改善するため、2012 年より小学校の建設を開始し、子どもたちが基礎教育をしっかりと受けられるよう支援に取り組んでいます。

事業内容

国内事業では、日本の子どもたちの「やってみたい」という気持ちを引き出し、社会問題を解決するために行動する子どもたちの育成、サポートをするため、4つの事業を展開しています。

子ども主体事業 ... p 18



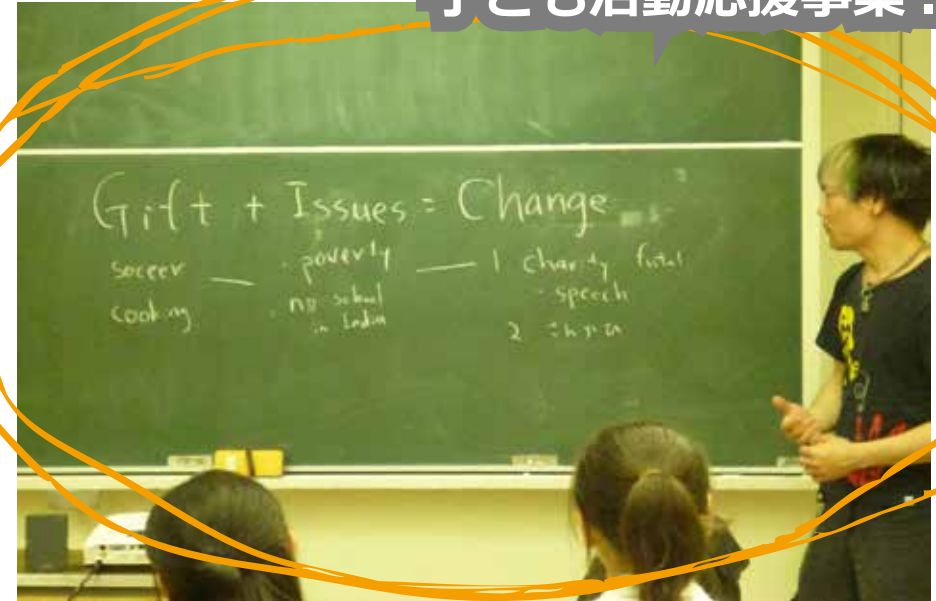
子ども代表委員がリーダーとなり、子どもメンバーが子どもの意見やアイデアを集め、世界の子どもたちの権利を守るための事業を自ら企画し、活動しています。

アドボカシー事業 ... p28



子どもやおとなに途上国の子どもたちの問題や子どもたちの権利について知らせ、人々の意識を高める事を目的とし、全国の学校、イベントなどでスピーチ（講演）、ワークショップなどを実施し、世界の子どもたちの状況や、子どもたちの権利のことを伝えます。

子ども活動応援事業 ... p 19



子どもに気づきのきっかけを与え、カブける、スキルを身につける機会を提供するこの2つを目的として、日本の子どもたちが国際協力活動に取り組むための環境づくりをしています。

外部ネットワーク事業 ... p32



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのビジョン、ゴールを実現することを目指し、様々なセクター、組織と協働し活動しています。

子ども代表委員企画

2012 年度子ども代表委員

上野 勇葵（高校 1 年）賀来 ゆり恵（高校 1 年）佐光 真結子（高校 1 年）

西野 彩紀（高校 2 年）林 優花（高校 3 年）



▲子ども代表委員のミーティングの様子



▲活動のヒント講座で説明する代表委員

1 年をふりかえって：子ども代表委員 林 優花

今年の子どもの代表委員は全員意識が高く、話し合いをするにしても、活動をするにしても、とても円滑に進めることができたと思います。今年から子どもの代表委員の活動の形態が一気に変わったため、昨年から続けてやっていた私は少し戸惑いましたが、他の代表委員のメンバーにとっても支えられました！子どもだからこそ柔軟な発想で、子どもらしく、楽しく活動ができた一年でした！意見のぶつかり合いや、みんなで乗り越えなければならないトラブル、全国にいる子どもメンバーへの配慮など、大変なこともたくさんありましたが、それによってとても 成長することができました。これからもさらなる成長のために様々な活動をしていきたいと思います。

2 年間、子どもの代表委員として活動できて良かったです！スタッフをはじめ、子どもメンバーの活動をサポートしてくださった皆さん、ありがとうございました！私は大学生になったので、ユースメンバーとしてこれからもフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動を続けていくとともに、ユースメンバーの活動をもっと活発なものにしていきたいです！

活動のヒント講座

国際協力に興味はあるが何から始めればよいのか分からないという、小中高生に対して「活動ヒント講座」を 2012 年 10 月から毎月 1 回開催しました。世界の問題を映像や写真を通じて学び、ワークショップを通じて、自分の特技を活かした国際協力の活動を考えていくワークショップを行いました。



チーム活動

子どもメンバーとユースメンバーが自分の特技や好きな事を活かして、国際協力に取り組むチーム活動をサポートしています。2012 年度は 7 つのチームが活動しました。

アクションキッズ



▲アクションキッズ：児童労働反対デーメインイベントで演劇を通して児童労働の現状について伝えました。

フィルムクリエイター



▲フィルムクリエイターチーム
団体を紹介する CM 作成し、よこはまショートフィルムフェスタで入賞しました。

署名チーム



▲署名チーム
児童労働反対の署名をイベントで集めました。500 人分の署名を集めることができました。

子ども記者



▲子ども記者チーム
国際協力活動や世界で起こっている問題をテーマに研究を行っている研究者や大学の教授にインタビューをして、記事を作成しました。

フェアトレード



◀ フェアトレードチーム
イベントでフェアトレード商品の販売をしたり、フェアトレードについてのパネルを作成しました。商品開発にも取り組みました！

アンバサダーズ



▲アンバサダーチーム
出張講演でスピーチやワークショップのファシリテーターを行いました。事務所で行われている団体説明会でも、団体説明等を行っています。

ちょこプロ



▲ちょこプロ
今年はインド学校建設支援のためのチャリティチョコレート販売しました！

▼福岡グループと FTCJ KUMAMOTO が Skype によるテレビ電話を使いミーティングを行いました。最近の活動報告、これからの活動について情報交換をしました。



福岡グループ



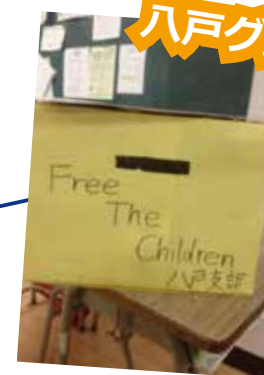
▲水支援のために、イベントで一円玉募金を行いました！ 1640 円集まりました。（福岡）

FTCJ 広島



▲クリスマス募金を行いました！（広島）

八戸グループ



◀ 書き損じハガキを 800 枚集めました。集め始めたときは、集まるのか心配していましたが、全校生徒が一丸となってハガキを集めることができたと思います。（青森 八戸グループ）

▼インド学校建設支援のために、チャリティーフットサル大会を開催しました！インドの学校建設費 120 万円を集めるのを目標に活動していきます！（東京）

グループ活動

学校や地域で仲間を集め、活動しているグループのサポートをい行っています。2012 年度は 16 のグループが活動しました。

モンゴル事業支援の資金調達のために、バザーに出店しました。（熊本）



FTCJ

KUMAMOTO



拓殖大学グループ



テイクアクションアカデミー in カナダ

8月2日から8月13日まで、フリー・ザ・チルドレンが行っている、子ども・若者向けのリーダーシップトレーニング・プログラム、テイク・アクション・アカデミー（Take Action Academy in Canada:TAAC）に日本の子ども・若者が参加できるよう企画運営を行いました。TAACでは、1週間生活を共にして参加型ワークショップやセミナー、アクティビティーを通じて、アクションを起こすために必要なスキルを身につけていきます。日本からの参加者は**13**名でした。



▲アカデミーでは、セッションやグループワーク、アクティビティーを通して、チームビルディングや、世界の現状について学んだり、リーダーシップについて学びました。



アクティビティは、主に外で行われ、チームで協力してゲームをクリアしていきます。
カナダの夏は、晴れの日が多く、参加した子どもたちも元気に走ったりして体を動かしていました。



◀ アカデミーのプログラムでテイクアクションデーという一日ボランティアを通じてアクションを起こそう！という日があります。ディケアセンターの子どもたちと交流したり、食事を作って、フリー・ザ・チルドレンのオフィスでボランティアを体験しました。

参加した子どもたちは、世界をみんなにとってより良いものへと変えるアクションを起こすための勇気をもらって日本に帰ってきました。参加者の声を一部ご紹介します！



嘉生 紗蘭
ファティム
(中学3年生)

私が一番心に残ったことは、グループに分かれて世界中の諸問題について話し合ったことでした。沢山話し合ううちに、「私にも児童労働や紛争を止めることができるかもしれない」と思うようになり、将来はそのような仕事に就きたいと考え始めました。いろいろな国の人と英語で話したことは大きな自信になり、行く前と行った後とで、世界観が大きく変わりました。



矢作 知生
(高校2年生)

今までは自分の世界は日本の限られた場所だけだったけれど、アカデミーに参加して、世界中に同じ志を持った多種多様な意見を持つ仲間たちがいることに気がつき、世界の中に自分がいることに気づきました。そして自分のやっていることは世界のためにどのような意味があるのだろう、これから自分は何をしなければいけないか、についてより考えるようになりました。アカデミーに参加できて本当に良かったです。

テイクアクションアカデミー in ジャパン

助成協力：三菱 UFJ 国際財団

3月27日から3日間、テイク・アクション・アカデミー in ジャパン (Take Action Academy Japan : TAAJ) を開催しました。TAAJ は、ワークショップやディスカッションを通して、参加者である子ども若者が社会で起きている問題を知り、その解決に向けて自らがどうアクションを起こすか考え、より良い世界のために活動するためのノウハウを学ぶ3泊4日で行われる合宿型ワークショップです。29名の中高生が参加し、10名のユースメンバーがファシリテーターを務めました。2012年度は、三菱 UFJ 国際財団様から助成協力を頂きました。



▲フィリピンからゲストスピーカーを招き、フィリピンで起きている児童売春などの問題について話を聞くことができました。



▲ユースメンバーは、事前にファシリテーター養成講座を受講し、ワークショップのファシリテーターを務めました。

東日本大震災支援

助成協力：株式会社チャンピオン

東日本大震災を受け、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは被災地域に暮す子どもを支援するため、相馬市立中村第二小学校に現地に古くから伝わる原釜太鼓セットを寄贈しました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、2011年の震災後、被災地応援プロジェクトを立ち上げ、2年前から相馬市の学校などと関連支援活動をしています。

2012年度は、株式会社チャンピオン様からのご寄付によって、地元で古くから伝わり、子どもたちからも親しまれている「原釜太鼓」を相馬市の沿岸部にある中村第二小学校に寄贈することができました。



相馬市立中村第二小学校に通う子どもたち▶



この地区は、津波で大きな被害を受け、多くの児童がいまでも仮設住宅で生活しています。もともと漁業が盛んな地区で、震災前より、同校の子ども達がイベント等で「原釜太鼓」を演じ地域の活力となっていました。

しかし、地震や津波で被害に遭い、学校にあった太鼓が流されたり、壊れたりして使えなくなってしまったため、「新しい太鼓があれば、和太鼓演奏活動も復活でき、子ども達も地域で太鼓を演奏することができ、みんなの励みになると思います。」という、ご要望を相馬市教育委員会から頂き、太鼓セットを寄贈しました。



スピーカー派遣

助成協力：年賀寄付金

全国の学校や企業、イベントなどへファシリテーターが出張し、社会問題を身近に感じ「自分は無力だ」という考えを捨て、「自分にもできる」という自分の可能性にきづくことのできるプログラムを提供しています。

2012 年度は年賀寄付金の支援によって、出張講演専用のパンフレットを作成と、公立の学校への訪問が実現しました。また、スピーカー派遣の体制を整えるためにファシリテーターの育成にも取り組むことができました。

「フリー・ザ・チルドレンの出張講演プログラム」

1 回 45 分～ 120 分、対象やご要望に合わせて下記の 5 つのプログラムの中から複数を組み合わせて授業を行います。

- 1) 社会問題を知ろう
- 2) 12 歳の N G O 設立物語
- 3) 私たちにできること
- 4) チームビルディング
- 5) 英語で学ぶ



2012 年度 スピーカー派遣先一覧

小学校：5 校

和光小学校、大阪府立豊野町立光風台小学校、練馬区立大泉第二小学校、東大和市立第三小学校、調布市立若葉小学校

中学校：15 校

洗足学園、町田市立真光寺中学校、加藤学園暁秀高等学校中学校、世田谷区立桜丘中学校、神奈川県鎌倉市立腰越中学校、和光学園 和光中学校、練馬区立光が丘第四中学校、能勢町立東中学校、中野区立第五中学校、 聖学院中学校・高等学校、多摩市青陵中学校、横浜市立藤の木中学校、世田谷区立梅丘中学校、板橋区立立志村第五中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校

高校：9 校

園調布雙葉、立命館守山、浜松海の星、大阪府立能勢高校、都立農芸高等学校、茗溪学園、神奈川県立神奈川総合高等学校、千代田高等学校、聖学院中学校・高等学校

大学：1 校

尚絅学院大学

その他（団体、イベント等）

ひばりが丘バイブルチャーチ、Vital Japan 101st Meeting、SYD(公益財団法人修養団)、Wesley Foundation、NTT 労組「児童労働撲滅キャンペーン in 北海道」、児童労働反対世界デーイベント「ぼくは 5 歳で兵士になった ～元子ども兵士が語る最悪の児童労働～」、元子ども兵士ミシェルと語ろう！ぼくたちにできること、アムウェイ・プラザ福岡、SHIBUEN2012 ～ SHIBUYA ENTERTAINMENT FESTIVAL-Heal the world, Heal the Children- ～、KiddyCAT English School (株式会社アルク)、和光小学校保護者の同好会「くらしとれきしを考える会」、能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 研究発表会、Vital Japan、グローバルフェスタ

派遣先合計：43 力所

参加人数合計：8280 人

元子ども兵士・ミシェル招へいプロジェクト

毎年6月にある、児童労働反対世界デーに合わせ、フリー・ザ・チルドレンでスピーカーとして実績を積んだ、元子ども兵士ミシェル・チクワニネ氏を招へいしました。10日間の間、全国で14カ所で約4,000人に向けて講演会を実施することができました。

また、本事業において、高校生や大学生を対象にした交流会やイベントを開催し、それを通じて60人以上の子どもたちが当団体のメンバーとして新たに登録し、13件のメディアで取り上げられました。

児童労働反対世界デーイベント
「ぼくは5歳で兵士になった
～元子ども兵士が語る最悪の児童労働～」



元子ども兵士ミシェルと語ろう！
ぼくたちにできること



フェアトレード商品販売

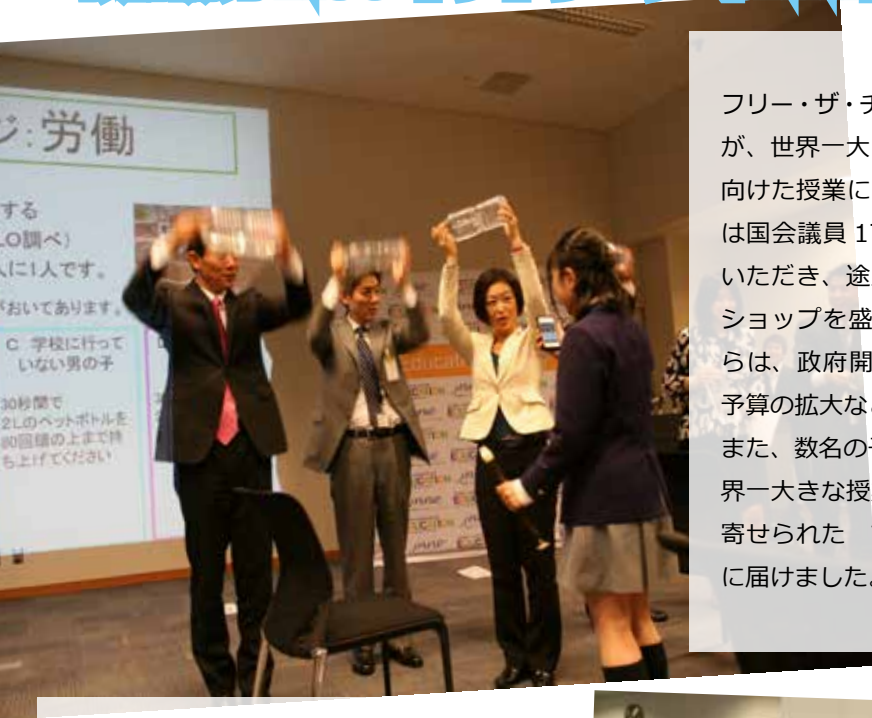
支援先であるフィリピンのプレダ基金やフィリピンにあるフェアトレードショップ、FTC カナダより仕入れている、フェアトレード商品の販売を行っています。事務所やオンラインショップで販売、また、さまざまなイベントに出店し、販売およびフェアトレードについての啓発活動を行っています。

2012年度は、新しく商品カタログを作成し、イベント等で配布を行いました。



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンのビジョン、ゴールを実現することを目指し、様々なセクター、組織と協働し活動しています。

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE)



フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの子どもメンバーが、世界一大きな授業として行われた、国会議員に向けた授業に「先生」として参加しました。当日は国会議員 17 名、議員代理 9 名の方々に参加していただき、途上国の子どもの教育をテーマにワークショップを盛り込んだ授業を行いました。JNNE からは、政府開発援助 (ODA) のうちの、教育支援の予算の拡大など、NGO からの提言を伝えました。また、数名の子どもメンバーが外務省を訪問し、「世界一大きな授業」に参加した全国の子どもたちから寄せられた「首相宛のメッセージカード」を日本政府に届けました。

世界一大きな授業とは？

2003 年より、180 か国の NGO や教職員によるネットワークが毎年 4 月に実施しており、世界中の子どもたちが同じ期間に一斉に世界の教育事情について学ぶ「世界一大きな授業」が行なわれます。2012 年度は、「震災から見てきた教育の大切さ」をテーマに教材が作られました。日本の小中高校大学 502 校 校の 55,485 人が授業に参加しました。



日比 NGO ネットワーク (JPN) : フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。

「動く→動かす」: ミレニアム開発目標 (MDGs) を達成し、貧困問題を解決するために 2005 年に発足した世界的な市民社会ネットワーク GCAP (Global Call to Action Against Poverty の略。ジーキャップ)。世界 131 カ国にまで広がるこのネットワークの日本版として設立されたのが、「動く→動かす」です。現在、途上国の貧困問題解決に取り組む日本の NGO72 団体が参加しています。賛同団体としてネットワークに参加し、活動を実施。



児童労働ネットワークの 22 会員団体及び 14 のキャンペーン賛同団体により 5 月 5 日～6 月 30 日にかけて、「児童労働反対世界デー・キャンペーン 2012」を開催しました。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは元少年兵ミシェルを招聘し、各地で講演会を開催、また、東京と大阪・御堂筋で児童労働学習会とウォークを企画、準備、運営を行いました。

6 月 10 日には、文京学院大学仁愛ホールにて、NGO - 労働組合国際協働フォーラム、ILO 駐日事務所、児童労働ネットワークの三者共催で「ぼくは 5 歳で兵士になった～元子ども兵士が語る最悪の児童労働～」を開催、参加者は過去最高の 664 名を記録しました。

また、2007 年度から実施している「児童労働をなくそう！ 10 万人署名」を今年度も実施し、28 万 5140 筆を集めました。その後 9 月に内閣府、外務省など関係省庁の各大臣又は副大臣へ署名を提出し、要請を行いました。

子どもの権利委員会に個人が 申し立てできる制度を作ろう！ キャンペーン

2011 年 12 月に国連総会で採択された新議定書が、より各国に受け入れられ、機能するために、子どもが理解しやすいようなパンフレットの作成や、新議定書が日本政府による署名・批准の実現に向けてのキャンペーンを行いました。

動く→動かす

2012 年 10 月 1 日から 17 日まで、貧困解決を求める意志を示すために「立ち上がり」(STAND UP)、「行動する」(TAKE ACTION) ことを呼びかける「STAND UP TAKE ACTION」が行われ、1143 件、総勢 2 万 9614 人が参加しました。

日比 NGO ネットワーク (JPN)

今年度はフィリピンの GGP (草の根・人間の安全保障無償資金協力という在外日本大使館が担当する途上国援助をするための ODA の一つのスキーム) の現地事業評価を行い、外務省に対して提言を行いました。

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) : 開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA (万人のための教育) 運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動を行っています。

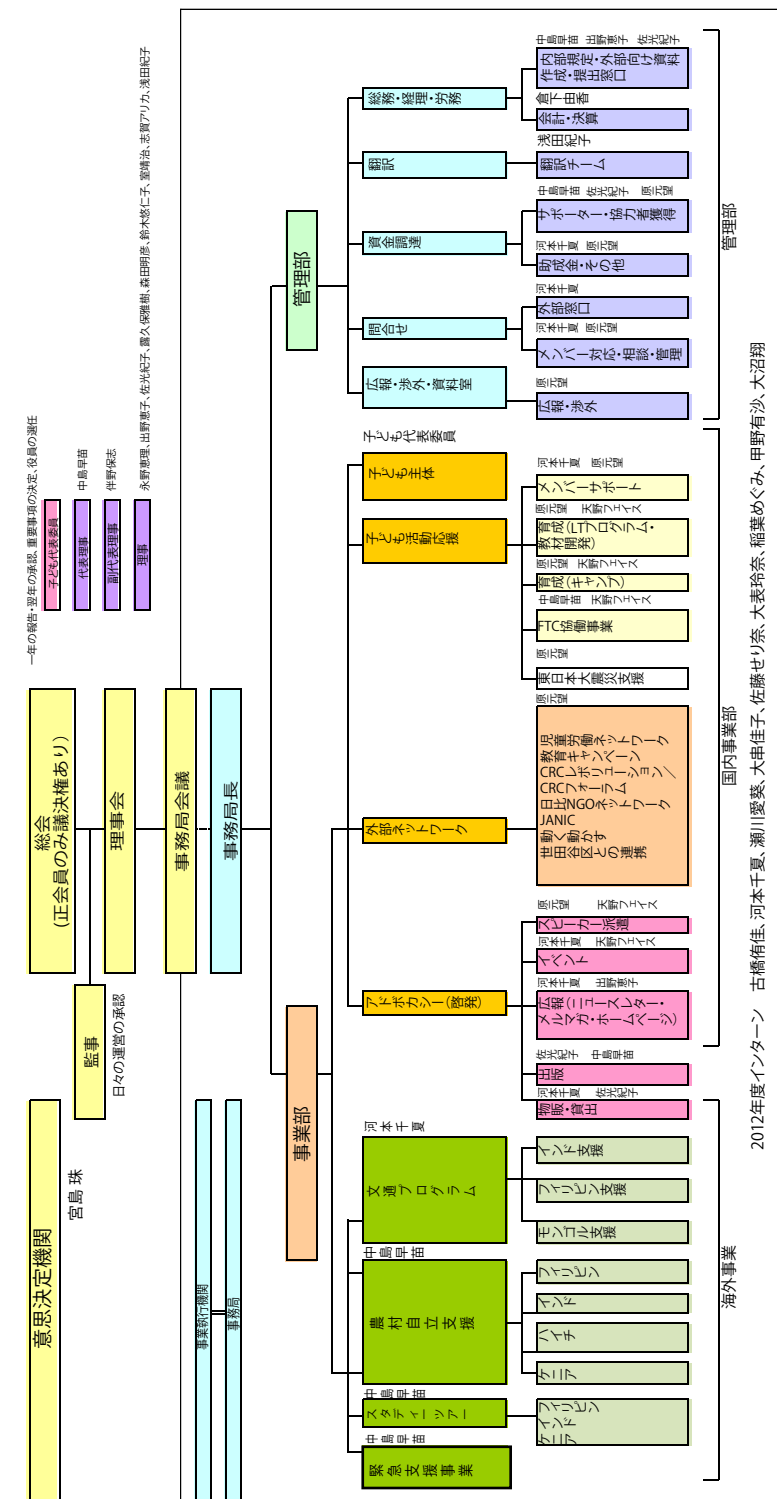
児童労働ネットワーク (CL ネット) : 児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されている。

名称：特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
(英文名称) Free The Children Japan
設立年月：1999 年 1 月 1 日
法人格：2004 年 9 月 21 日東京都より「NPO 法人」認証
：2012 年 3 月 16 日国税庁より「認定 NPO 法人」認証
法人格：特定非営利活動法人
事務所所在地 〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F
代表者 中島早苗
メンバー数 800 名 (2012 年度登録数)
正会員数 32 名 (2012 年度)
役員・顧問 役員 12 名 (理事 11 名、監事 1 名)、顧問 1 名
事務局員 専従スタッフ 3 名 非専従スタッフ 2 名 インターン 9 名
事務局ボランティア 10 名 翻訳ボランティア 30 名

役員一覧

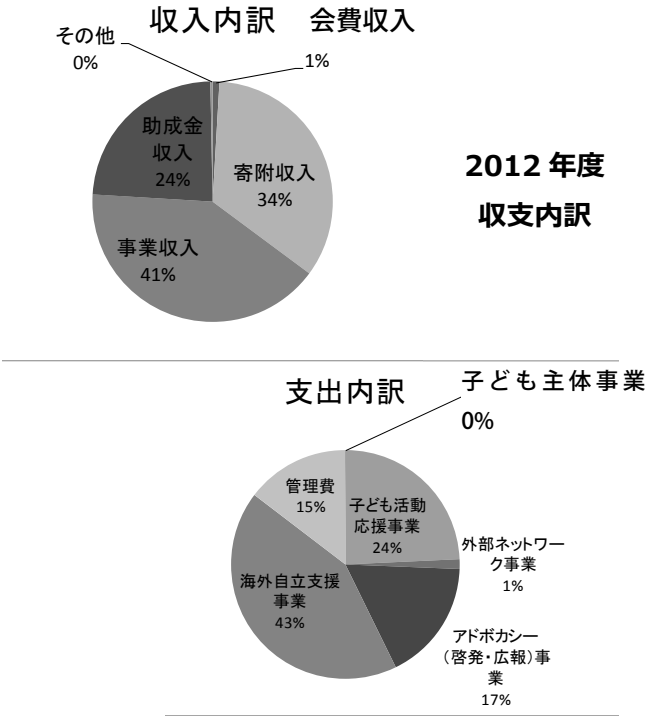
理事 中島 早苗（なかじま さなえ）
理事 伴野 保志（ともの やすし）
理事 永野 恵理（ながの えり）
理事 出野 恵子（いでの けいこ）
理事 佐光 紀子（さこう のりこ）
理事 森田 明彦（もりた あきひこ）
理事 浅田 紀子（あさだ のりこ）
理事 室 靖治（むろ やすじ）
理事 露久保 雅樹（つゆくぼ まさき）
理事 鈴木 悠仁子（すずき ゆにこ）
ユース理事 志賀 アリカ（しが ありか）
監事 宮島 珠（みやじま たま）

組織図



2012年度 会計収支計算				
2012年4月1日～2013年3月31日				
(単位:円)				
科 目	予 算	金 額	達成率	備 考
I 収入の部				
1. 会費・入金会収入				子ども会員は0円のため計上せず。
正会員会費	350,000	278,000	79.4%	29件(大人27、学生2)
一般会員会費	50,000	45,000	90.0%	11件
合 計	400,000	323,000	80.8%	
2. 寄付金・募金収入				
サポーター	1,350,000	648,000	48.0%	
一般寄付	3,600,000	2,055,103	57.1%	
国内事業指定寄付	1,250,000	3,028,196	242.3%	
海外支援事業指定寄付	5,845,000	6,203,290	106.1%	シダナ¥134,000、フレタ¥116,380、CCDY¥3,000、インド¥3,601,677 セシゴ¥¥531,451、FTCネット¥17,399、緊急支援¥131,152 その他指定なし¥1,668,231
管理費指定寄付	300,000	109,948	36.6%	
合 計	12,345,000	12,044,537	97.6%	
3. 事業収入				
子ども主体事業	100,000	0		
子ども活動応援事業	5,135,000	5,755,510	112.1%	TAACY¥5,382,110、TAA¥¥373,400
外部ネットワーク事業	100,000	0		
アドボカシー事業	7,950,000	3,678,225	46.3%	物販¥3,192,700、イベント・出張講演¥485,525
海外自立支援事業	3,520,000	4,911,910	139.5%	FTCインド¥111,540、FTCネット¥100,000、スタッフ¥4,235,370、文通プログラム¥465,000
合 計	16,805,000	14,345,645	85.4%	
4. 補助金収入				
助成金収入	11,264,440	8,353,670	74.2%	青年海外協力協会¥2,158,690、大阪コミュニティ財団¥220,000、年賀寄付金¥1,075,000、 地球市民財団¥980,000、世田谷区¥100,000、 愛のカンパ¥400,000、市民社会創造ファンド1,200,000、 三菱東京UFJ財団¥600,000、JICS¥969,980、TOTOTO¥650,000
5. その他収入				
受取利息	2,000	1,437	71.9%	
雑収入	30,000	101,752	339.2%	為替差益、払い戻し金等
合 計	32,000	103,189	322.5%	
前期繰越収支差額	9,145,822	9,145,822	100.0%	
当期収入合計(A)	40,846,440	35,170,041	86.1%	
合計(B)	49,992,262	44,315,863	88.6%	
II 支出の部				
1. 事業費				
子ども主体事業	100,000	30,697	30.7%	
子ども活動応援事業	8,441,420	7,751,036	91.8%	人件費¥2,405,505、旅費交通費¥4,031,886
外部ネットワーク事業	411,000	439,899	107.0%	人件費¥206,500、旅費交通費¥123,520
アドボカシー事業	6,071,420	5,486,442	90.4%	人件費¥1,771,075、旅費交通費¥1,302,977
海外自立支援事業	17,024,000	13,681,986	80.4%	人件費¥890,777、旅費交通費¥3,010,139
合 計	32,047,840	27,390,060	85.5%	
2. 管理費				
役員報酬	0	0		
人件費・謝礼費	996,000	1,117,603	112.2%	アルバイト、事務局スタッフ
ボランティア保険	12,000	0		
法定福利費	350,000	186,389	53.3%	
家賃・光熱費	1,840,000	1,595,577	86.7%	(家賃115,000円+光熱費)×12か月
消耗品費	200,000	240,233	120.1%	
旅費交通費	1,540,000	145,730	9.5%	アルバイト、事務局スタッフ
研修・施設会場費	200,000	300,000	150.0%	
通信運搬費	450,000	298,097	66.2%	電話、インターネット、送料、団体専用携帯料
印刷製本費	400,000	419,034	104.8%	パンフレット、チラシなど
租税公課	300,000	70,000	23.3%	
減価償却費	50,000	0		
什器備品費	300,000	0		
固定資産除却損	50,000	0		
支払手数料	50,000	34,991	70.0%	JACCS(自動引き落とし制度)利用料など
雑費	50,000	282,019	564.0%	学校情報デジタルデータ、全事業共通経費など
合 計	6,788,000	4,689,673	69.1%	
3. その他				
予備費	300,000	0		
当期支出合計(C)	39,135,840	32,079,733	82.0%	
当期収支差額(A)-(C)	1,710,600	3,090,308	180.7%	
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,856,422	12,236,130	112.7%	
合計	49,992,262	44,315,863	88.6%	
III 正味財産増減の部				
1. 正味財産増加の部				
当期収支差額		3,090,308		
在庫増加額		306,626		
正味財産増加の部計		3,396,934		
2. 正味財産減少の部				
在庫減少額		361,781		
正味財産減少の部計		361,781		
当期正味財産増加額		3,035,153		
前期繰越正味財産額		5,094,597		
当期正味財産合計		8,129,750		

監査報告書



特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (単位:円)
平成25年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	4,862,815
現 金	159,135	預 り 金	154,571
小 口 現金	135,609	仮 受 金	3,150
普通 預金	11,613,761	流動負債 計	5,020,536
外 貨	327,625	負債の部合計	5,020,536
現金・預金 計	12,236,130	正 味 財 産 の 部	
(売上債権)		【正味財産】	
未 収 金	498,000	正 味 財産	8,129,750
売上債権 計	498,000	(うち当期正味財産増加額)	3,035,153
(棚卸資産)		正味財産 計	8,129,750
商 品	306,626	正味財産の部合計	8,129,750
棚卸資産 計	306,626		
流動資産合計	13,040,756		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
什 器 備 品	272,853		
減価償却累計額	△ 272,853		
有形固定資産 計	0		
(無形固定資産)			
借 地 権	90,000		
電話加入権	19,530		
無形固定資産 計	109,530		
固定資産合計	109,530		
資 産 の 部 合 計	13,150,286	負債・正味財産の部合計	13,150,286

助成金

年賀寄附金配分事業（出張講演）

大阪コミュニティ財団（NL 発行、子ども記者チーム活動費）

連合愛のカンパ（出張講演）

三菱 UFJ 国際財団（Take Action Academy Japan）

外務省主催 NGO インタートッププログラム（公益社団法人青年海外協力協会）

世田谷国際交流基金（活動ヒント講座）

財団法人地球市民財団（フィリピン・ミンダナオ島先住民族コミュニティ 教育支援）

東京都の草の根助成「草の根市民基金・ぐらん」（インド・ラジャスタン州ウダワド村 農村地域保健衛生支援）

Panasonic NPO サポートファンド（組織強化）

協賛

NTT 労働組合（ミシェル招聘事業）、Wesley Foundation（ミシェル招聘事業）

協力

カナダ大使館、児童労働ネットワーク（CL-Net）、NGO 労組国際協働フォーラム、国際労働機関（ILO）、駐日事務所、公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本、特定非営利活動法人 Inseki Project、三井生命保険株式会社 PMM サービス事業部、日本アムウェイ（福岡）、株式会社アルク、FTCJ 福岡、U N H C R 駐日事務所、株式会社チャンピオン（東日本大震災支援）、NPO 法人 Shared Smile Japan（株式会社ディアーズ・ブレイン）（インド・ラジャスタン州バリンド村 学校建設事業支援）

活動助成協力

JANIC・NGO サポート募金（ケニア・母子保健、健康増進支援）

機関紙：2 件 人権タイムス、第 67 回日本生物地理学会年次大会プログラム

教材：6 件 高校家庭科教科書 2012 生活学 Navi、中学公民教科書ビジュアル公民 2012、高校英語教科書 UNICORN、高校英語教科書 English Now !、中学公民教科書『ビジュアル公民 2012』、高 2 講座 定期テスト対応教材 英語（WEB 掲載分）

新聞：11 件 読売新聞 朝刊（東京）、毎日新聞（東京、静岡、福岡）、中日新聞、朝日小学生新聞、西日本新聞朝刊、Japan Times、朝日新聞朝刊、読売新聞 朝刊 くらし面

雑誌：4 件 Morgen、クロワッサン、English Journal、ALCOM World

ラジオ：2 件 J-WAVE ロハスサンデー、T O K Y O F M クロノス

テレビ：2 件 NHK 総合 首都圏ニュース、日本テレビ系列 世界一受けたい授業

web：2 件 AFPBB News、Think the Earth

書籍：2 件 講談社『読む 知る 話す ほんとうにあったお話 5 年生』、小峰書店『イクバルと仲間たち 児童労働に立ち向かった人々』

新聞・ラジオ・テレビでちょこプロの活動が取り上げられました



朝日新聞や読売新聞、NHK の首都圏ニュース、J-WAVE の ロハスサンデーなどで、チョコレートプロジェクトの子どもたちの活動の様子が取り上げられました。



元子ども兵士ミシェル 日本テレビ系列「世界一受けたい授業」に出演！

番組では、ミシェルのなぜ子ども兵士になったかなど、自身の幼少時代の経験を語りました。



特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL&FAX03-6321-8948 (受付 10 : 00-19 : 00)

info@ftcj.com www.ftcj.com

★フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、2012年3月16日、国税庁よりの認定NPO法人として認定されました。これにより、当団体に対する皆さまからの寄付・募金は「特定寄附金」とみなされ「寄附金控除」の対象となります。詳しくは団体ホームページをご覧ください。